

新型コロナウイルス感染症のワクチンをめぐって

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

■ 新型コロナウイルスのワクチンについて

増加の勢いがとまらない新型コロナウイルス感染症。今年1月には、首都圏など一部の都府県に対して2回目の緊急事態宣言が出されました。多くの人が免疫を持たない感染症であり、特効薬が開発されていない今、ワクチンへの期待が高まっています。安全で有効なワクチンが承認され、供給できるようになると、医療従事者や高齢者、基礎疾患のある人への優先接種に続いて、一般接種が開始されます。

接種が開始されると、希望する方が多数と予測されます。また、最初に届くファイザー社製のワクチンが、保管に超低温冷凍庫を必要とすることから、集団接種を想定して準備を進めています。なお、ワクチン接種は、原則、居住する住所地で市町村が発行する「受診券」をもとに受けることになっています。接種は、3週間の間隔で2回接種することとされており、肩等への筋肉内注射となります。

新しいワクチンの副反応や安全性について、気になっている方も多いのではないのでしょうか？今回は、ワクチンの副反応についてお話ししていきます。



■ ワクチン接種後の副反応

副反応とは、ワクチン接種後にみられる、免疫がついたり増強される効果以外の反応をいいます。

現在、海外での第3相臨床試験や、接種が開始されている国では接種後に、接種部位の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉痛、発熱などがみられたことが報告されています。局所の腫れや痛み、発熱等はインフルエンザや肺炎球菌ワクチンの副反応と共通しているようです。

また海外では、まれな頻度ですがアナフィラキシーが発生したことも報告されています。

■ アナフィラキシーとその対策

アナフィラキシーとは、原因物質の侵入により多臓器にアレルギー反応が起こり、生命に危険が及ぶような過敏反応がでることです。中でも、血圧低下や意識障害などに進展する場合は「アナフィラキシーショック」と呼びます。主な原因物質には、ワクチンを含めた医薬品や食物、ハチ毒などが知られています。なお、従来の予防接種薬によるアナフィラキシーの発症は約100万回の接種に1回程度で、日本では毎年10人程度が発症、死亡例の報告はありません。食物アレルギーや喘息などのアレルギー歴がある人に起こりやすく、接種後30分以内の発症が半数以上を占めています。症状はさまざま、じんましんなどの皮膚症状が約9割にみられ、約半数が呼吸困難、喘鳴を引き起こし、約3割に血圧低下や、めまいなどの循環器症状がみられます。発症時に備え、点滴やアドレナリン注射ですぐに治療を開始できる準備が必要です。

■ ワクチンを接種するにあたって

初めてのワクチンに不安な方も多いと思います。まだ不明な要素が多いのも事実です。最終的には個人の判断ですが、前回の副反応が一定の割合で出現しても軽快する(または薬剤対応できる)こと、アナフィラキシーにも準備次第で対応できること、接種により、新型コロナウイルス感染症の発症が20分の1(ファイザー社製)に抑えられたとの報告を考慮すると、有用なワクチンと考えます。優先度は高いとされていませんが、他へうつすリスクを減らす意味で若年者の接種も大切です。医療者側が効果とリスクについて正しい情報の発信に努め、住民の信頼を得て事業を進め、社会の感染症克服へ道筋をつけられればと願っています。



新型コロナウイルス感染予防のために1人ひとりができること

感染の拡大を防ぐためには、1人ひとりの心がけがとても大切です。あなたやあなたの周りの人たちを守るための行動をしましょう。

基本的な感染症対策

- 石けんで手を洗いましょう。
- こまめに換気しましょう。
- マスクを着用しましょう。
- 咳エチケットを心がけましょう。
- 3密(密閉、密集、密接)を避けましょう。
- ほかの人と十分な距離(2m)を取りましょう。



問合せ 健康保険課 健康増進グループ(常北保健福祉センター内) ☎029-240-6550